

伝送シミュレータについて

この伝送シミュレータは、現場で実際に伝送試験をする前に、あらかじめWEB上で伝送シミュレーションをおこなうことで、現状の受信システムで4K8K放送が伝送可能か、機器を交換すれば末端の壁面端子まで伝送可能かなどを推測し、受信システムの改修検討や改修提案をしていただくためのツールです。

伝送シミュレータのログイン手順

テレビ受信向上委員会ホームページにアクセス

URL <http://tvkoujou.com/>



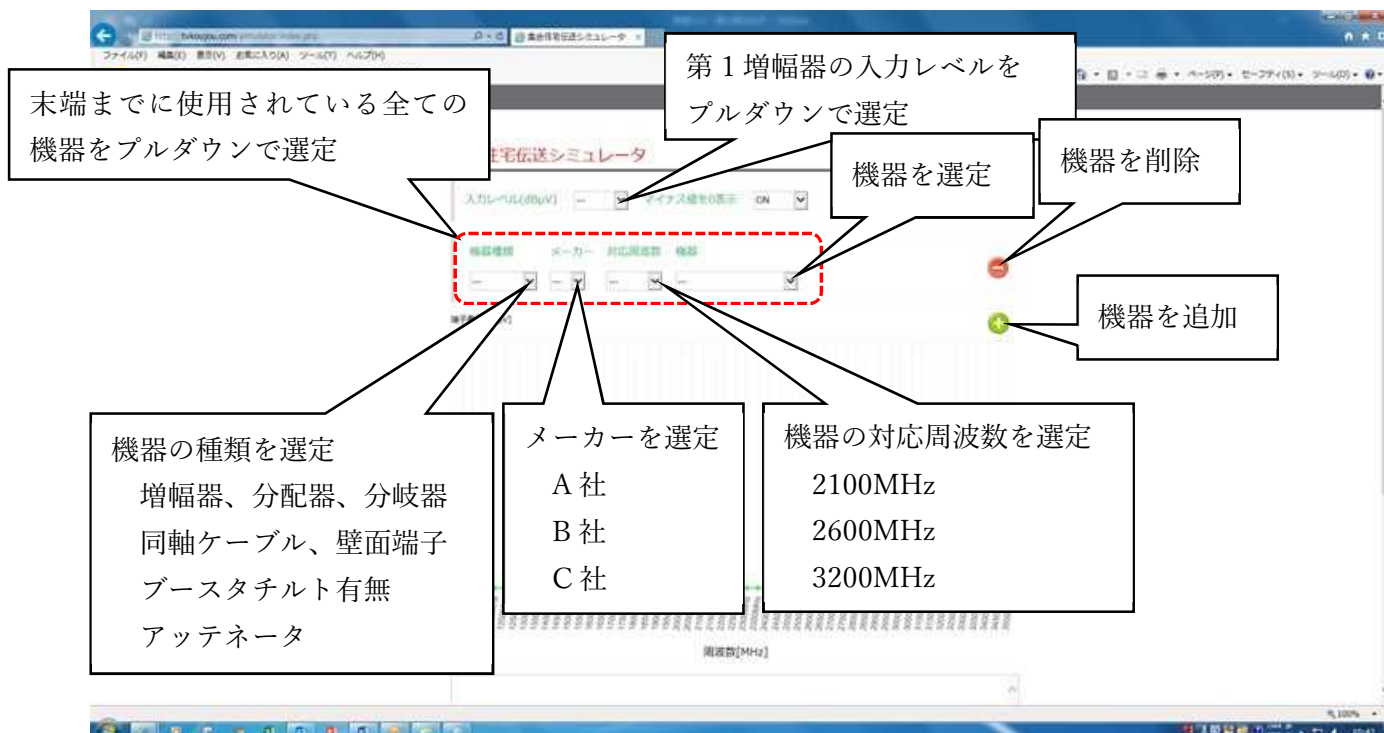
伝送シミュレータのページ



ID とパスワードを入力してログイン



シミュレータへのデータ入力



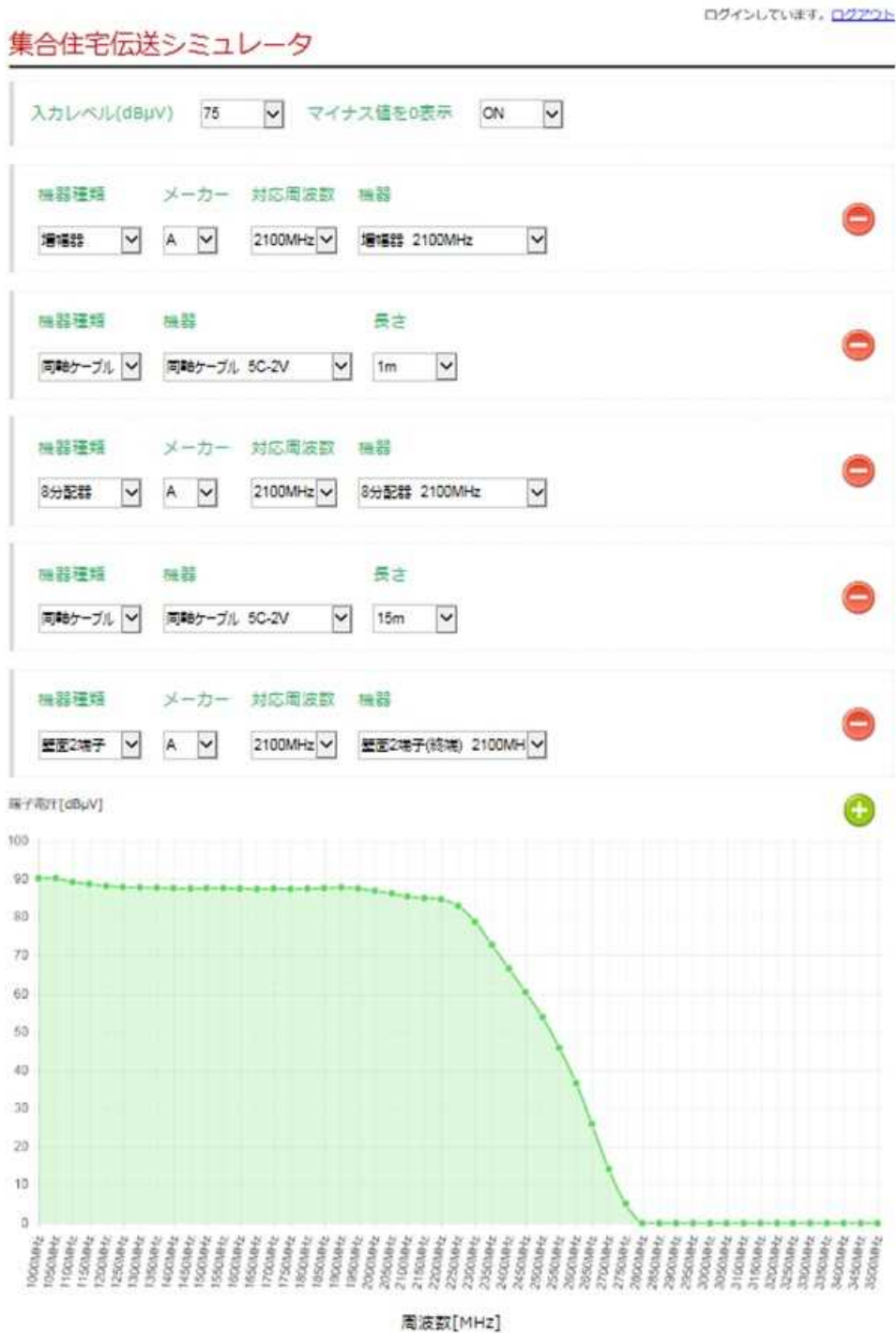
※メーカーの選定 (A社、B社、C社) について

増幅器や分配器等の受信システム機器の周波数特性には個体差があり、特に規格周波数範囲外では同じメーカーかつ同じ型番であっても多少異なります。A社、B社、C社は、その個体差と考えてください。例えば、A社、B社、C社の3種類でシミュレーションをしてみて、末端まで伝送可能であれば、概ね伝送可能と推測できるとか、そういう使い方になります。

シミュレータへの入力例

第1増幅器入力レベル：75dB μ v、増幅器：2100MHz対応、同軸ケーブル：5C-2V 1m

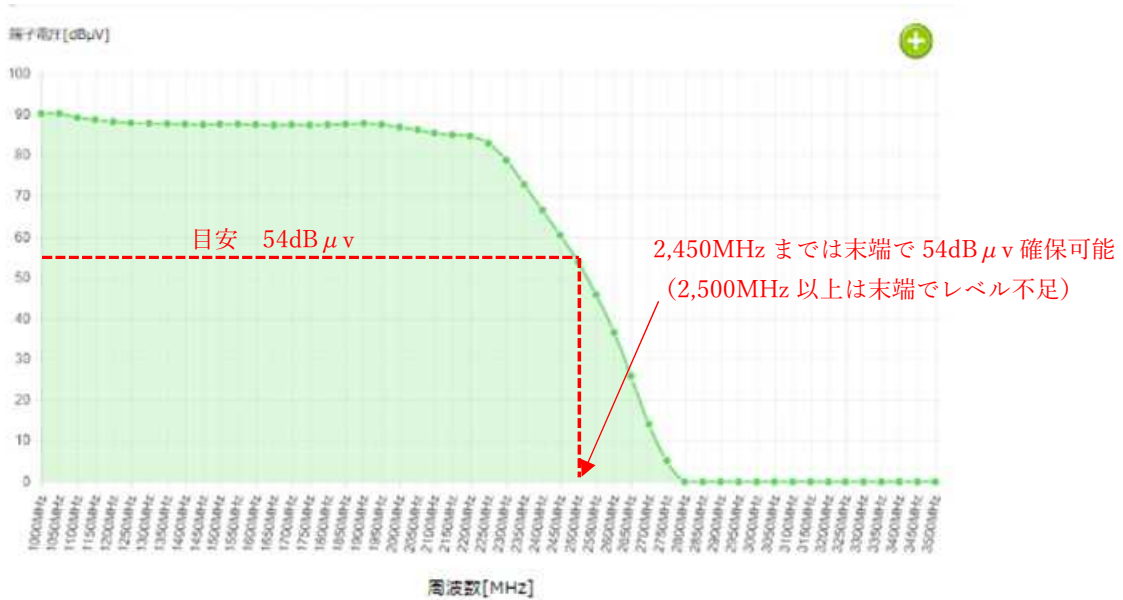
分配器：8分配器 2100MHz対応、同軸ケーブル：5C-2V 15m、壁面端子（2端子）：2100MHz対応
以上の場合は以下のように入力する。



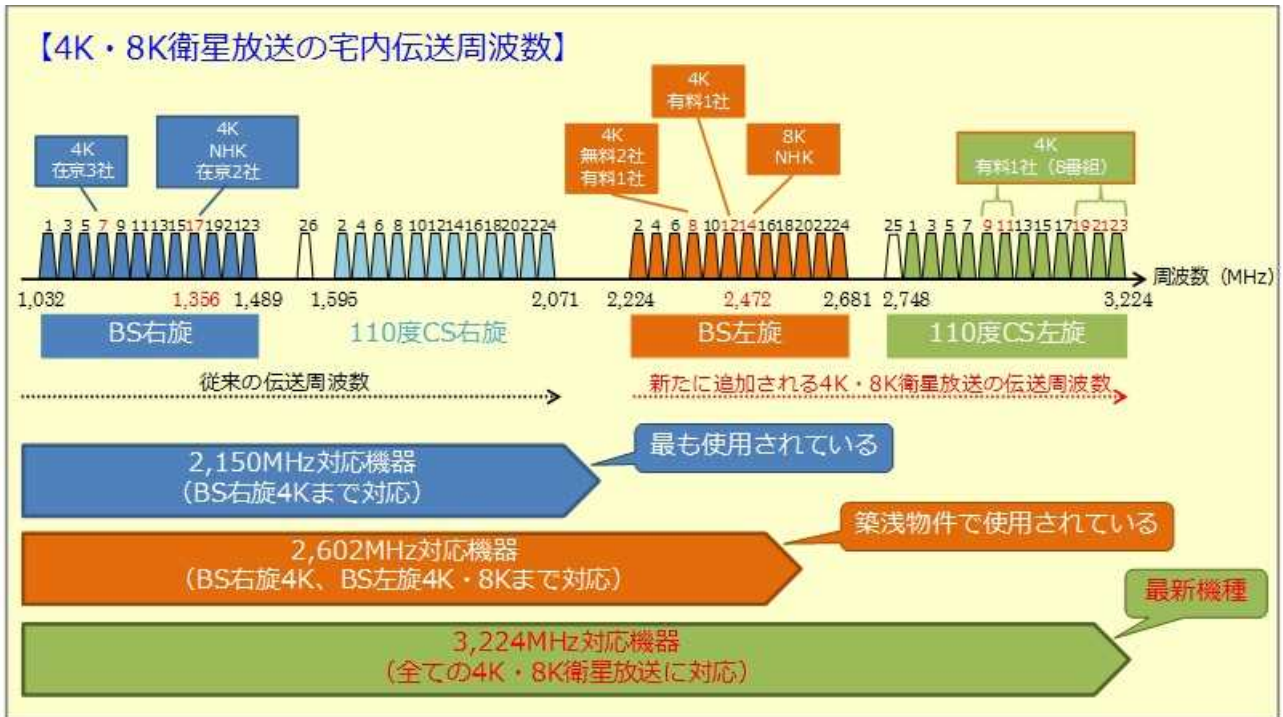
グラフの読み方

縦軸が壁面端子出力レベル、横軸が周波数です。

このシミュレーション例では、壁面端子出力レベルは最低でも 54dB μ v を確保することを目安として考えると、2,450MHz (BS-12ch あたり) までは末端の壁面端子まで最低限必要な受信レベルを確保できますが、それより高い周波数 (BS-14ch 以上) では受信レベル不足になるということが推測できます。



【参考資料】



(参考) 報告書式例のご使用について

①報告書式例はこちらをクリックし、ファイルを適宜保存して使用してください (エクセルファイル)

周波数 [MHz]	電圧 [dBm]	電圧 [dBm]
1000	87.2	87.2
1100	87.2	87.2
1150	87.2	87.2
1190	87.2	87.2
1200	87.2	87.2
1250	87.2	87.2
1300	87.2	87.2
1350	87.2	87.2
1400	87.2	87.2
1450	87.2	87.2
1490	87.2	87.2
1500	87.2	87.2
1550	87.2	87.2
1600	87.2	87.2
1650	87.2	87.2
1700	87.2	87.2
1750	87.2	87.2
1800	87.2	87.2
1850	87.2	87.2
1900	87.2	87.2

②ボックス内をクリックすると全データが選択されるので、右クリックしてコピーする

周波数 [MHz]	電圧 [dBm]	電圧 [dBm]
1000	87.2	87.2
1100	87.2	87.2
1150	87.2	87.2
1190	87.2	87.2
1200	87.2	87.2
1250	87.2	87.2
1300	87.2	87.2
1350	87.2	87.2
1400	87.2	87.2
1450	87.2	87.2
1490	87.2	87.2
1500	87.2	87.2
1550	87.2	87.2
1600	87.2	87.2
1650	87.2	87.2
1700	87.2	87.2
1750	87.2	87.2
1800	87.2	87.2
1850	87.2	87.2
1900	87.2	87.2

